小学校問題行動等防止プログラムに関する実践事例

善通寺市立東部小学校

関連項目：検証改善プラン①、②

情報やデータ分析により学級経営の改善を図る

目的

教員の経験値だけに頼る主観的な学級経営ではなく学級満足度尺度を利用し、結果を分析することによって、問題行動の深刻化を防ぐために、一人一人に応じた学級経営の改善に生かす。

内容

● ＱＵテスト及び心に寄り添うアンケートの実施

ＱＵテストを６月と１月の２回実施する。１回目の結果から、学級集団の診断を行う。また、支援を要する児童について、日常の観察や児童の実態と照らし合わせ、学級の現状についての分析を行う。個別カードの活用についての方針を決める。

心に寄り添うアンケートは各学期１回実施する。内容は「学校が好きか」「自分のことが好きか」「友だちはいるか」「困ったり、悩んだりしていることがあるか」の４項目である。全校児童の実態を分析すると共に、気にかかる児童を把握するのに役立てる。

ＱＵテスト、心に寄り添うアンケート、日常の観察の結果を関連させ、学級経営、個への支援についての方針を決める。

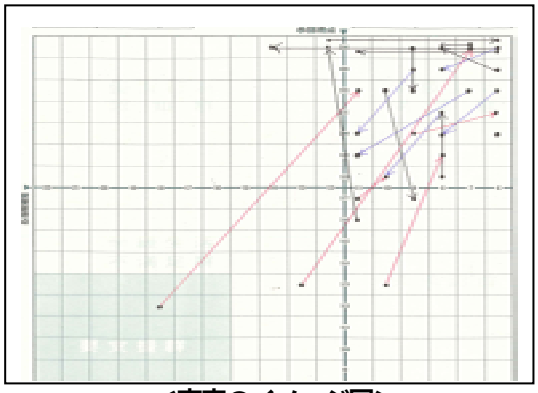
● 学級経営改善のための具体的なかかわり

ＱＵテストの個別票については、１学期の個人懇談会の折に活用し、保護者との話し合いの資料にし、児童の課題を家庭と共有できるようにする。

学級集団の変容のために、具体的なかかわりについて、夏季休業中の現職教育で、交流し合い、教員間の学びを深める。

● 学級集団の中での個の変容を分析し、有効なかかわりを共有する

１月に２回目のＱＵテストを実施し、学級の変容を見える形に表し、その原因について分析する。それぞれの学級でプラスに働いたかかわり、マイナスに働いたかかわりについてまとめ、全教職員で共有し、今後の手立てに活かしていく。



＜変容のイメージ図＞

＜プラスのかかわりの例＞

小さなことでもその場でほめる。認める。
役割を与え、達成できるよう支援する。
学習面での個別指導を続ける。
係活動など、児童相互の賞賛の場を設ける。
誕生日を特別な日として大切にする。
下学年では、教師と児童との個別の人間関係をより深める。教師からの賞賛を増やす。
上学年では、級友からの賞賛の場を増やす。

成果

こうした取組を行うことで、ＱＵテストの学級生活満足群が、６月の５７％から１月は６３％と６ポイント増加した。また、学級生活不満足群は、１９％から１５％と４ポイント減少した。また、非承認群、侵害行為認知群も減少し、全体の傾向として、それぞれの度合いも低くなっている。

教師が、客観的な視点を意識することで、具体的な支援について考え、実践を続けることができた。また、児童の実態は、教師のかかわりによって、必ず変容するということを実感し、教師の主観によって、決めつけないという指導観を培うことができた。今後、プラスのかかわりや、マイナスのかかわりを更に分析することで、発達段階に即した指導、支援の在り方を探っていきたい。